

大本山永平寺と道元禅師

今をさかのぼること七五一年まえ、寛元二年（一二四四）七月、数え年四五歳の道元禅師は、越前志比庄（福井県吉田郡）に、大檀越・波多野義重公の支援をうけて、傘松峯大仏寺を創建されました。大仏寺の大仏は、開基義重公（如是居士）の号であるところから、これを寺号としたのです。この寺は、そもそも尼将軍・北条政子と右大臣源実朝の菩提弔を弔うために建立されたといいます。二年後の寛元四年（一二四六）六月一五日、大仏寺

を永平寺と改称し、更に二年後の宝治二年（一二四八）一一月一日、傘松峯を吉祥山と改名しました。これより、吉祥山永平寺とよばれて今日に至っています。

吉祥山については、釈尊が坐禅成道（お悟りを開くこと）のとき敷いた吉祥草という草の名にちなんで、伽藍を建立するところは吉祥であるという由来があります。道元禅師は、吉祥とは、もろもろの仏たちとともに生活する場

所のことだと示しておられます。

永平寺の永平については、インドから中国にはじめて仏法が伝えられたのが永平一〇年（六七）であるという縁由があります。道元禪

師は、永平寺と改称した日、この世に釈尊が降生して「天上天下唯我獨尊」と宣言したのに和して、「天上天下當處永平」と唱えておられます。永平寺こそ、釈尊の仏法を正伝するわが国の仏教の原点であり、総府であると自負していたことを示すものであります。

永平とは、永遠の平和をあらわしている名称であると言つてもよいとおもいます。ここには、人類の崇高な理想が象徴され、生きとし生けるものの祈念がこめられているといえましょう。

吉祥山永平寺は、福井県福井市の東南一六キロメートルの山麓に位置し、境内はおよそ

三三三万平方メートル、七〇余棟の堂舎が整然と甍を並べています。つねに、二〇〇余名の雲水たちがきびしい修行生活をおくつて余念がありません。

曹洞宗一五〇〇〇か寺の寺院と八〇〇万余人の檀信徒の大本山として、總持寺（神奈川県横浜市。鎌山禪師開創）とともに、寺院の根源、信仰の帰趣となっています。

（東 隆真）

